

ラジイとスタジイの二種類があるがツブラジイの方が多し。どちらとも非常によく似ており、堅果を見ないと判別し難いので組成表ではツブラジイとして挙げた。一般的にはスタジイは海岸寄りの地域に、ツブラジイは内陸の地域に分布する種類である。

町内の五か所の森を総合すると高木層はツブラジイに次いでクロキ、カクレミノ、タブノキなど、亜高木層はミミズバイ、アラカシ、モチノキなど、低木層はヒサカキ、サカキ、イヌビワなど、草本層はヤブラン、テイカカズラ、オオアリドウシ、ヤブコウジ、オオカグマ、ホソバカナワラビなどの被度や常在度が高くなっており、照葉樹林の特徴をよく表している。しかし、仲哀山地などと同様に低地においても、一般の照葉樹林では普通種であるヤブツバキとアオキがほとんど出現しない。

胸の観音では第一駐車場の上部を調査した。直径五〇錢、樹高一五<sup>尺</sup>のやや古いすぐれたシイ林である。シイの樹下には亜高木や低木のミミズバイ、草本層にオオカグマの多い林である。綾塚古墳では二又池に続く斜面を調査した。ここではシイにクロキ、カクレミノ、アカガシ、アラカシ、ヤマザクラ、リョウブなどが交じっている。これほどの低地にアカガシが出現するのは珍しいことである。勝山神社では長い参道の両側に带状にシイ林が残り、他は人工林化している。しかし、社殿跡の左側にはシイ林がまとまって見られる。箕田大池では南側の手前

にヒノキ林があり、それを抜けると自然林となる。シイの他にはクロキとカクレミノが多い。扇八幡古墳は六世紀前半の前方後円墳である。古墳上やその周辺には大径木がたくさんあるが、低木や草本は刈られて一見公園化されている。樹木の主な種類はツブラジイ、イチイガシ、シラカシ、シロダモ、ナメノキ、エノキ、クスノキ、ミミズバイ、ヤブニツケイ、クロキ、カクレミノ、モチノキ、クロガネモチ、エゴノキ、ホソバタブ、ネズミモチ、イヌガシ、サカキなどの自然木とイチヨウやスギの植栽である。周囲四四〇<sup>メートル</sup>、高さ二三<sup>メートル</sup>のツブラジイや周囲三二四<sup>メートル</sup>、高さ二五<sup>メートル</sup>のイチイガシ、それに分布のまれなヤマモガシの存在が目を引く。調査は人の手が入っていない北側で行った。ここでは樹下にクロキ、ヒサカキ、ミミズバイが多く見られ、草本層はオオアリドウシとテイカカズラで埋まっていた。

#### 四 長峽川の植生

長峽川の本町最下流にあたる上田橋から上流の岩熊橋及び上河内橋までの間を平成十三年十月に調査した。川の中の植生は洪水により、また、堆積した土砂や生えた植物を除去するなどの作業により川の中の状況が絶えず変化しているために同じ場所に同じ植生がいつも見られるとは限らない。特に平成十四年夏にはたびたび洪水が発生したのでここに記した状況はすでに

かなり変化していると思われる。

上田橋付近は止水域である。大分八幡宮前ではカイツブリやバンがすみついており、コイやブラックバスも泳いでいた。畠鉦橋には堰があり、その直下の深みにはオオカナダモとヒシの群落があった。この堰から上流の下川原橋まではマコモとヒメガマの群落で埋まり、一部にホテイアオイ、ヒシ、カンガレイなどの小群落が見られた。下川原橋から黒田橋までの間は完全にツルヨシで埋まり、水がどこを流れているか分からない状態であった。川の中の陸地化した部分ではカナムグラやミゾソバの群落が見られた。長峽川の兩岸はほとんどブロックで固められているが、土のある斜面やその上方の路肩にあたる部分にはセイタカアワダチソウ、クズ、カラムシ、クワモドキ、カナムグラ、セイバンモロコシ、アレチハナガサなどの群落が見られた。

黒田橋の上流部は写真のようにわずかな水路を開けて全面を植物が覆っている。水路に沿ってツルヨシ、マコモ、ミゾソバなどがあり、岸辺に向かってヤナギタデ、ジュズダマ、オナモミ、クワモドキなどが、浅い止水部にはオオカナダモ、ヤナギモ、オオフサモ、カンガレイなどが生育している。黒田橋上流約五〇〇<sup>メートル</sup>の折口橋付近にはホテイアオイの大きな群落がある。ホテイアオイは浮遊状態の時は葉柄にまるい浮囊ができるが、過密状態ではそれはできず、葉柄は立ち上り長さ八〇<sup>センチメートル</sup>に



写真1—16 長峽川黒田橋上流の河辺植生  
マコモやツルヨシの群落



写真1—17 長峽川の氾濫原に茂るゴキツル

も伸びて別の植物のようになる。

更に上流の箕田橋からは水路に沿ってツルヨシとキシユウスズメノヒエ、やや岸寄りにミゾソバ、ヤナギタデ、オオイヌタデ、更に岸辺にジュズダマ、アメリカセンダングサ、アゼガヤ、ゴキツルなどが生育する。

長川橋付近には人家が並び、川は管理され、草はなく、放流されたコイが悠然と泳いでいる。

松ノ木橋付近では流れの中にはヤナギモ、浅い所にはオランダガラシが現れ、斜面などのやや乾いた所にはゴキツルの群落がある。このすぐ上流で、浦河内からと矢山からの川が合流している。浦河内からの川は流れがやや急で、川の中には大きな岩もあり、ほとんどツルヨシで埋まっている。一方、矢山側の

表1—4 水生植物の生育形による分類

<ul style="list-style-type: none"> <li>・根は水底に固着せず、水面または水中に浮遊している→浮遊植物： ホテイアオイ、ボタンウキクサ、ウキクサ、ノタヌキモなど</li> <li>・根は水底に固着している             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 葉は水面より上に伸びている→抽水植物：ヒメガマ、マコモ、カンガレイ、オオフサモ、ハスなど</li> <li>2. 葉は水面に浮いている→浮葉植物：ヒシ、ガガブタ、ジュンサイ、ヒルムシロ、オニバス、ヒツジグサなど</li> <li>3. 植物体は水面下にある→沈水植物：オオカナダモ、クロモ、ヤナギモ、ミズオオバコなど</li> </ol> </li> </ul>
--

川は岩熊まで静かな流れで、川土手にアジサイの植えられた付近ではキシヨウブやオランダガラシの群落も見られる。両河川とも上流は溪流となり、五月にはゲンジボタルが舞う。

五 水生植物群落

町内には大小四〇余りの溜池がある。山地の規模が小さく、傾斜が急で保水力に乏しいためにたくさんの溜池が必要となる。

近年、ほとんどの溜池で土手や側壁などの改修工事が行われてきたが、その割には多くの貴重な水生植物が発見された。おそらく工事の際に池の中のヘドロを完全に除去しなかったことが植物の保存につながったものと考えられる。また、溜池の周辺に人家が少なく、生活排水などの汚水の流入がないことが幸いしている。

調査は夏から秋にかけて行つたので、どの溜池も満水状態です。

表1—5 保護上重要な水生植物

種類	福岡県レッドデータブックのカテゴリー	生育地
オオバシナミズニラ	絶滅危惧ⅠA類	上野（未確認）
ミカワタヌキモ	〃	二又池（ 〃 ）
ヤナギスブタ	〃	長迫池（ 〃 ）
ノタヌキモ	絶滅危惧ⅠB類	二又池、古池、長迫池
オニバス	〃	箕田大池
ミズオオバコ	〃	長迫池
センニンモ	〃	長迫池、加廊戸池
ガガブタ	絶滅危惧Ⅱ類	原田大池、綿打池
カワヂシャ	準絶滅危惧	岩熊
ジュンサイ	なし	古池、堂ヶ迫池、山田池
ヒツジグサ	〃	綿打池、古池
ミズワラビ	〃	小古野池、上野
イヌタヌキモ	〃	古池、二又池、長迫池、新池、升田池、小松池、中尾池、原田大池
ナガレミズヒキモ	〃	堂ヶ迫池、小松池
ホソバミズヒキモ	〃	新池
エゾミソハギ	〃	綿打池、亀田池、新池
ミズユキノシタ	〃	升田池

あり、池の底まで把握できたとはいえない。水生植物の中には稲の刈り入れ後に溜池の水が落とされ、干潟になった所に出現する種類も多い。しかし、近年、水を落とさない池がたくさん